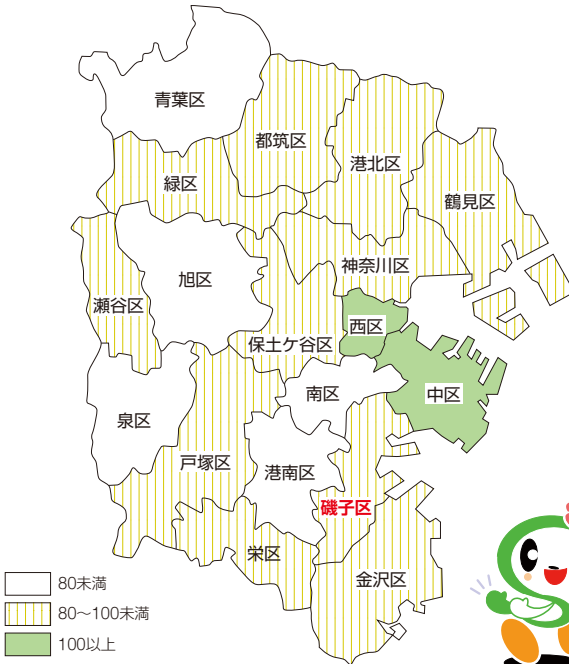


◆区別昼夜間人口比率



昼夜間人口比率とは、常住人口（夜間人口）に対する昼間人口の割合です。100を超えると通勤・通学等の流入が多く、その地域に昼間、人が集まっていることを示します。磯子区は、前回調査（平成27年）と比べて0.2減少しました。

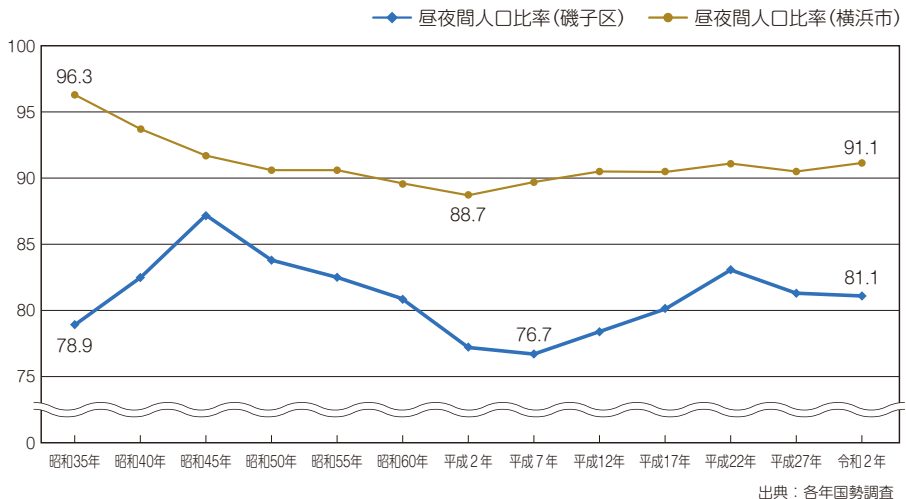
参考：西区 210.4(全国14位)
中区 168.7(全国27位)

磯子区の
昼夜間人口比率は81.1で
横浜市内では
18区中、9番目です。
(令和2年10月1日現在)

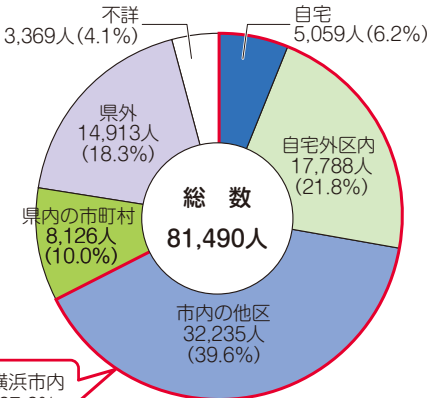


出典：令和2年国勢調査

◆昼夜間人口比率の推移 ～磯子区は前回と比べて0.2減少～



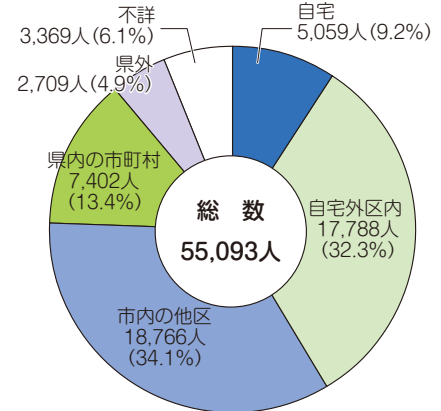
◆磯子区民の通勤・通学先 (15歳以上)



横浜市内
67.6%

出典：令和2年国勢調査

◆磯子区へ通勤・通学する人の住所 (15歳以上)



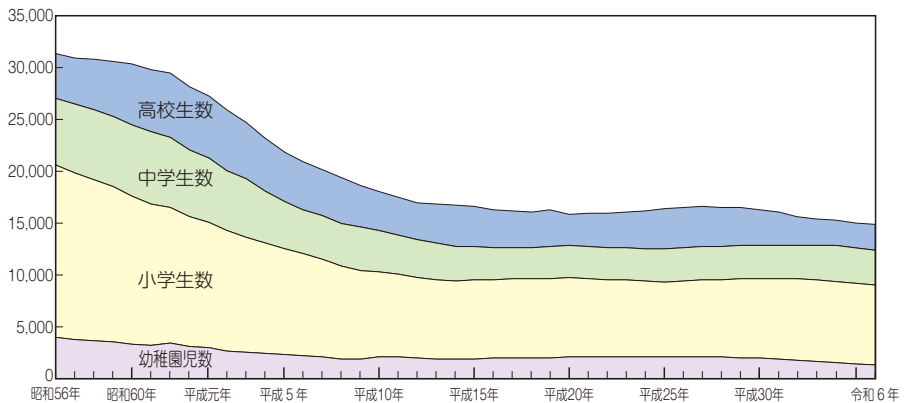
出典：令和2年国勢調査



横浜市内に通勤・通学する人の割合は、
67.6%(全市59.3%)で市内で1番多い区です。
(令和2年10月1日現在)

◆幼稚園児・児童・生徒数の推移 (磯子区)

令和6年は幼稚園児1,259人、小学生7,700人、中学生3,358人、高校生2,493人、合計14,810人となっています。ピーク時(昭和56年、合計31,357人)と比べて半数以下となっています。

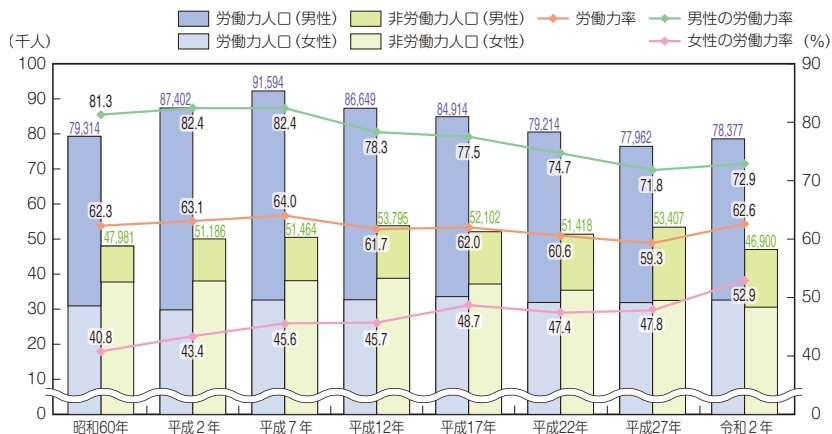


出典：学校基本調査(各年5月1日現在)

◆労働力人口 ～磯子区は引き続き減少傾向に～

労働力人口とは、満15歳以上の人口のうち、就業者と完全失業者（就業していないが、就職活動をしている失業者）の合計のことをいい、また、満15歳以上の人口に対する労働力人口の割合を労働力率といいます。

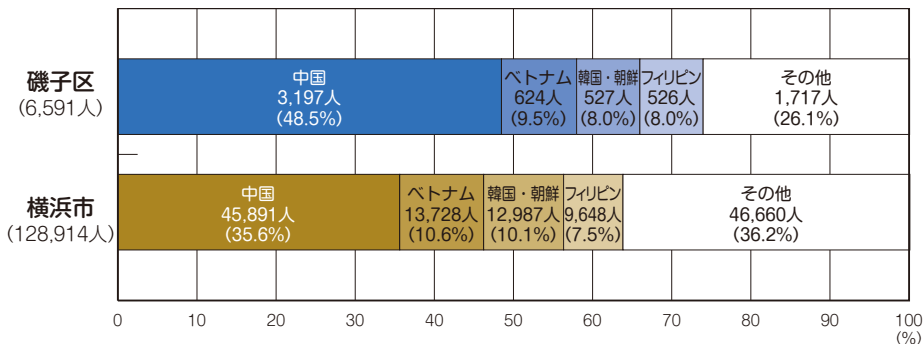
磯子区では平成7年から減少傾向にあるものの、女性の労働力率は増加傾向にあります。



出典：各年国勢調査

各種内訳	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
労働力人口(男性)	53,339人	57,591人	58,972人	53,921人	51,303人	47,266人	45,441人	43,988人
労働力人口(女性)	25,975人	29,811人	32,622人	32,728人	33,611人	31,948人	32,521人	34,389人
非労働力人口(男性)	10,241人	12,266人	12,593人	14,977人	14,900人	15,981人	17,874人	16,315人
非労働力人口(女性)	37,740人	38,920人	38,871人	38,818人	37,202人	35,437人	35,533人	30,585人

◆外国人人口 ～アジア諸国が大半を占める～



出典：外国人人口（令和7年3月31日現在）